

アゲハチョウ

Papilio xuthus

種名



分類	アゲハチョウ科												
形態	前翅長 35～60mm。最もよく知られている蝶のひとつ。春型は小さく、黄白部分が広い。夏型は黒色部が広く、色味が淡い。キアゲハによく似ている。本種は、地色が黄白色で、薄い。前翅中室に黒条がある。飛んでいるときにはギフチョウなどとまぎらわしい。には後翅表の前縁に黒色斑があり、とくに夏型にははっきり現れる。												
分布	北海道から南西諸島までのほぼ日本全土。小笠原諸島にも棲息する。東アジアに分布し、沖縄島など亜熱帯地域には近年侵入した。												
出現期	本州の暖地では3月から羽化を始め、10月くらいまで年4回の発生。寒冷地では年2～3回に終わることがある。越冬態は蛹。												
生態	山地には少なく、都市の近郊、畑の周辺など、人間が生活を営む場所でたくさん見られる。日当たりのよい場所にも飛んでいるが、たいていは樹木の生えている側や日陰に蝶道を作る。雌雄ともツツジ類、ユリ類、コスモス、ヒャクニチソウなどで吸蜜する。また、吸水活動も行う。												
食樹	サンショウミカン、ナツミカンなど各種のミカン類、サンショウ類、カラタチ。植栽されたものによく産卵する。また、キハダ、イヌザンショウ、カラスザンショウなど野生のものも食べる。小笠原諸島では、アコウザンショウが主である。												
幼虫 (幼生期)	卵は直径 1.2mm、ほぼ球形で黄色。4 齢幼虫までは鳥のフンに似た黒褐色である。終齢 (5 齢) になると緑色に変わる。腹部に2本の青緑色の斜帯があり、体長 50mm ぐらい。蛹は褐色や黄緑色、体長 30mm、背面に1本の突起がある。												
出現時期	(月)	-	-	3	4	5	6	7	8	9	10	-	-
その他													
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ													